教育経済建設常任委員会行政視察報告書

横　山　育　男

〇埼玉県鴻巣市

学力向上の取組み及びＩＣＴの効果的な活用について

【所　見】

鴻巣市では、国のＧＩＧＡスクール構想以前から教育現場でのＰＣを活用した政策が進んでおり、足利市より数段、先を行っていることを強く感じました。

先進欧米諸国と日本の学校授業でのデジタル機器の利活用時間等の少なさ、日本を取り巻く経済、社会の大きな変革期の中で学習指導要領では、情報活用能力を学習の基盤となる資質・能力と位置付けていることから平成３０年度から計画の検討を開始していたことが大きかったのだと感じました。そのような姿勢が認められ国のモデル事業にも指定されたのだと思います。

子供たちは勿論、教職員もＩＣＴ機器を文房具のように使えるようにする。毎日必ず学校の授業の中で使う、触れる事によって、慣れさせる事が、大切なのだと教授されました。

ただでさえ、多忙な教職員の中には、デジタル機器への対応や、授業に取り入れる事への負担もあったと思いますが、行政マン教育長の指導力と鴻巣市行政の強いリーダーシップもあったのだろうと思います。当然のことながら取り組んだ教職員の苦労も評したいと思います。

担当課の職員の方の話では、子供たちの順応性の高さに驚かされたとありました。結局は、教職員のやる気と意識付け、事業としての徹底を図る教育界の取り組みに課題があるのだと思いました。

この事業が進んだ事により先生が子供たちと向き合う時間が増えたことの利点や教員の時間外勤務の短縮にも繋がっている事を考慮しても本市の事業進展を計りたいと思いました。

最後になりましたが、こういう先進地視察の中で、必ずと言ってよいほどスーパー公務員の存在がクローズアップされます。鴻巣市での今回の事案でも教育総務課の新井さんという方がおられた事が、大きな要因だったようです。足利市でもこの分野に長けた人材を充てて先導役として頑張ってもらいたい。もし、そんな人材が居ないのであれば、私の一

般質問で取り上げたように民間投与も検討して進める必要性を感じました。

この取り組みにより、鴻巣市の小中学生の学業の向上にも繋がる事を期待して、今回の鴻巣市視察の所見とします。

〇神奈川県小田原市

まちのコイン「おだちん」事業について

【所　見】

小田原市での「おだちん」というコイン（ポイント）は、通貨的な要素や換金性は無く、例えば、海岸でのサンダルの貸し出しや、観光スポットでの案内・説明、その店舗のいで立ち、建造物などの説明的な口上、飲食店でのマイ箸、買い物の時のマイバック使用、海岸清掃・など付加的なサービス等に使用されているポイント型のコインによる経済活性事業であるとのことでした。

事業スタート２年ながら参加店舗 116 者、参加利用者 4,210 人を数え街中経済の循環に寄与しているとの事でした。

私自身もなかなか理解に苦しむところでありますが、換金や飲食店での値引きサービス等には使えない事などを、スポットに参加される店舗の方への趣旨説明や理解してもらう事の難しさ、関係者の努力も大変だなと感じました。

すべてのポイントのやり取りがＳＤＧｓ、17 コンテンツとの関連性を定義付けている事も意義ある事業でありますし、市民へのＳＤＧｓへの意識付けや事業への関心にも大いに役立つ政策とは感じました。

しかしながら、仮にこの事業を本市でも実施した時に事業者へ上手く説明できるかが、大きな課題になるのかと思いました。

また、この事業を他市や民間企業とも連携していきたいという構想を聞きました。価値観の整合性やポイントを発行する側と利用する側のバランスにも興味を持ちました。

市長の肝いりの政策の一つでもあり、担当課を新設しての事業との事で、初期投資のシステム開発業者への予算、ランニングコストもかかっているようですが、その費用対効果も気になるところではあります。

いずれにしろ、事業展開して２年でありますので、今後の動向も注視し、時を経て又、視察に来たいとも思いました。